



代表 あいさつ

(山根 光佑さん)

本日は二十歳を迎えた私たちために、このような心のこもった式典を開催していただき、誠にありがとうございます。また、楫野市長をはじめ、ご来賓の皆様には心温まる御祝辞と激励の言葉を賜り、お礼申し上げます。

私たちが生まれた年、それは、旧大田市と邇摩郡が合併し、「新しい大田市」になった年でもあります。つまり、私たちはこの町の新しい歴史とともに生まれ、同じ20年を歩んできた世代であります。この節目の年に二十歳を迎えることに、特別なご縁を感じています。

私たちは、小学4年生の時、ふるさと教育の一環で大田市合併10周年を記念し、大田市に向けてメッセージを書きました。私はそこに「ぼくは大田高校で甲子園に行きます。甲子園に出て大田市を有名にするから待ってね。」と書きました。結果、甲子園に出場することは叶いませんでした。幼いころから続けてきた野球を通して、地域のたくさんの人と繋がり、その方々や野球の指導に携わってくださった方々、声をかけてくださった地域の方々の支えや励ましのおかげだと感じています。そして目標に向かって共に頑張れる仲間がいたことも大きな財産です。自分が一生懸命頑張っている姿を温かく認めてくださったたくさんの方々のおかげで、その姿が誰かの喜びとなることを学ぶことができました。

今は島根県から出て、大学で教育について学んでいます。教育を学ぶとき必ず思い出す、大田市での学びの数々。自然豊かな大田市、ふるさとを誇りに思うたくさんの方々の温かさに改めて気づくことができます。

これからもすべての人が平等に受けられる教育の力で、あらゆる立場の人を支えられるように学んでいきます

そして、人を支えることができる信頼される大人になれるよう、これからも努力していききたいと思います。

(俵 玲美さん)

私は、高校卒業後、進学のために大田市を離れ、上京しました。初めての一人暮らしは新生活への不安と期待が入り交じり、とても刺激的な日々でした。しかし、将来の夢に向かって動き出したものの、思い描いていた姿との「ギャップ」に戸惑

いを感じ、現実の厳しさにぶつかりました。私にとって大きな挫折でもあり、人生の分岐点だったのかもしれませんが。

「継続は力なり」ということわざがあるように、ある目標に対して頑張っても、そのときに願いが叶うとは限りません。一年後かもしれないし、十年後かもしれない。正解のない自分自身の目標を追いかけることは、不安で逃げ出したくなることもあります。しかし、今まで積み重ねてきた努力はきつとどこかに繋がっていると信じています。

そう信じて新たな目標に向かって進んでいけるのは、「家族」という存在がいるからです。一人暮らしを通して、何気ない家族の気遣いや言葉が自然と励みになっていたこと、誰よりも味方で居てくれることに感謝します。二十年間、愛情を注ぎ続けてくれてありがとう。

故郷大田市は私の誇りです。大田市ではたくさんのことに挑戦し、地域の人と関わり、新たな知識を吸収することができました。私は十年前、二分の一成入式で、大田市と一緒に輝きたいと誓ったことを覚えています。今の私は少しでも近づけたのでしょうか。

二十年間、家族や先生方、地域の人に見守られ、さまざまな形の愛を受け取ってきたからこそ、これからは自分なりに多くの人に愛を与えることができる存在になりたいです。未熟な私たちですが、支えてくださるすべての皆様への感謝の気持ちを忘れず、少しずつ恩返ししていきたいです。

これからの私たちの未来が明るいものとなるよう、二十歳のつどいの参加者を代表し、結びの言葉とさせていただきます。

令和8年1月4日

代表 山根 光佑
俵 玲美